



# 2 学年通信

五所川原高校  
令和6年8月号

## 35分の18

高校2年生の夏休みはどうでしたか。夏休みといっても講習から始まり、立佞武多、総探のフィールドワーク、オープンキャンパス、部活など色々忙しくて、ぼんやりと過ごす時間がほとんど無かった人もいるかもしれません。過ぎてしまえばあっという間の夏休みだったと思いますが、未練を残さず爽やかに次へ向かおうではありませんか。2学期も目標に向かって試行錯誤する皆さんの姿を期待しています。

35分の18。気が付くと残り18になりました。これまでの17ヶ月間は皆さんにとって長かったでしょうか。それとも短かったでしょうか。おそらく夏休みと同じで「過ぎてしまえばあっという間」の17ヶ月に感じているのではないのでしょうか。ということは…。残りの18ヶ月も同様に進んでいきそうですよね。高校生活3年間で達成したいことは何ですか。願わくは全員が目標に向かって「やりきった」と言える時間の使い方をして欲しいと思っています。また、その目標が達成されて欲しいと日々考えています。

### 修学旅行をとおして学んで欲しいこと

○最新の情報を自分で集める

修学旅行が近づいてきましたね。自主見学のためのデータ集めは進んでいますか。職員室内でも担任の先生方と修学旅行のことについて話し合う機会が増えてきました。最近インバウンドの影響で京都市内の移動が大変だとか、様々な観光スポットが人でごった返しているなどの情報を耳にします。私のように、ここ数年京都へ出かけたことの無い人の京都市内のイメージは既に過去のものになっているかもしれません。インターネット等を利用して最新の状況を自分なりに調べてみて欲しいと思います。教員や親がもっている情報は古い可能性がありますから、欲しい情報は自分自身で最新のものを手に入れてください。

○安全に対する嗅覚を鋭くする

五所川原高校ほど安心・安全な場所はありません。西北五地域も同様ではないかと思っています。しばしばバスや電車にスマホや財布等を忘れてしまう人がいますが、本人の元へ届く確率がかなり高いです。これは一つの指標だと思っています。置き引きや盗難の話もなかなか聞きません。部活や体育で教室を離れる際の貴重品の管理などを見ると「この感覚で大丈夫かな」と心配になる時もあります。安心・安全な環境はとても良いことなのですが、そこで暮らす私たちの感覚は実は「平和ボケ」と言われても仕方ない状態です。地元の普通が他県や他国で通用するとは限りません。通用しないと思った方が正解です。自分の身の安全や財産を守るのは自分です。安全に対する嗅覚を鋭くし、事故等に巻き込まれない生き方を学んで欲しいと思っています。

○集団生活への耐性を高める

修学旅行は大いに楽しんでもらいたいし、心に残る良い思い出にして欲しいと願っています。ただ、一つ間違わないで欲しいのは、修学旅行は学校行事であるという事です。家族や友人と行く旅行ではないという事です。一人一人が違う価値観を持った15名の集団で行く旅行です。いつもとは違う人、違う場所、違うルーティンで過ごす四泊五日です。普段とは違うストレスが発生するでしょう。そういった状態の中で普段どおりに過ごすだけでなく、仲間への配慮や集団全体を俯瞰する力を身につけて欲しいと思っています。人間としての底力を一段上に引き上げるチャンスにしてください。

|          |                    |
|----------|--------------------|
| 第2回学年PTA | 9/13 (金)           |
| 修学旅行     | 10/8 (火)～10/12 (土) |

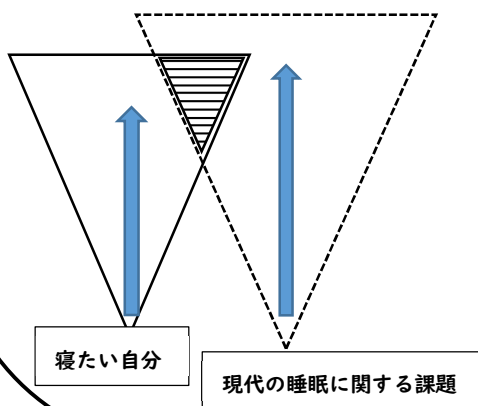
## 2学期は志望理由書を書き始めます

### 全ての人に大切なもの

「自分の志望する大学は一般受験の場合、面接も含めて必要ないから無駄な時間だ」と思っている人はいませんか。確かに大学入試の時点では不要なルートもあります。しかし、大学卒業後の就職活動では必ず必要になります。と言うよりも、この部分を明確に、熱意をもって話せなければ就職試験をパスすることはできません。そして、総合型や学校推薦型を受験する可能性がある人にとって志望理由書の内容は合否を左右する大切なものです。

### 自分の強みと社会の課題をつなげることを考える機会

「あなたのやりたいことは何ですか」と質問されて何と答えますか。今現在の自分の気持ちを素直に出してみてください。「寝たい」「ゲームしたい」「遊びにいきたい」でもOKです。それはあなたのやりたいことなので、是非実現して欲しいと思います。しかし、大学入試や就職試験の面接ではそうやって素直に答えることはできませんよね。では、なぜそうは答えられないのでしょうか。キーワードの一つは「社会貢献」です。たとえば「寝たい」について考えてみます。あなたが大学や会社で寝ることは社会に何か貢献していますか。貢献しているとすれば具体的にどのような貢献ですか。などと面接官に掘り下げられたら答えようがないですね。だから「寝たい」とは答えられないのです。しかし、「寝る」ことに対して誰にも負けないくらい興味があり、魅了されているのであれば、違うアプローチも考えられます。たとえば、「睡眠は健康的な生活のためには不可欠な要素ですが、近年はブルーライトを浴びる時間が長くなり、そのことが原因で体内時計が狂い、質の高い睡眠をとることのできない人が多い」という社会問題と「睡眠の心地よさに魅了されており、質の高い睡眠の実践者である自分」とをどうにか上手く結びつけられないかを考えるのです。そのためには自分のやりたいこと(エゴ)を広げてみます。今回は単に「寝たい自分」を「睡眠の心地よさに魅了されており、質の高い睡眠の実践者である自分」まで昇華させてみました。また、「現代の睡眠に関する課題」を「体内時計と質の高い睡眠との関係」まで広げてみます。するとスタート地点では関連性の無かった二つのことに「質の高い睡眠」という重なる部分(図の横線の部分)が生まれます。この部分を発見することで、自分の強みと社会の課題をつなげることができます。あとは、その部分に関しては誰にも負けないという事実を持ち、伝えられるようにすればいいのです。全ての大学、会社や組織の存在意義は「社会貢献」の一点です。大学のアドミッションポリシーも出発点は間違いなくそこです。志望理由書を書くこと事態が目的なのではありません。「自分の強みと社会の課題をつなげることを考える」ことが真の目的なのです。



眠との関係」まで広げてみます。するとスタート地点では関連性の無かった二つのことに「質の高い睡眠」という重なる部分(図の横線の部分)が生まれます。この部分を発見することで、自分の強みと社会の課題をつなげることができます。あとは、その部分に関しては誰にも負けないという事実を持ち、伝えられるようにすればいいのです。全ての大学、会社や組織の存在意義は「社会貢献」の一点です。大学のアドミッションポリシーも出発点は間違いなくそこです。志望理由書を書くこと事態が目的なのではありません。「自分の強みと社会の課題をつなげることを考える」ことが真の目的なのです。

## 青森県の教育改革がスタート

ちよつと堅苦しい言い回しですが、「青森県は青森県教育施策の大綱及び教育施策全般にわたる専門事項について、外部有識者の幅広い見地から助言等を得ることを目的に「青森県教育改革有識者会議」を設立しました。」青森県の未来をつくるのは皆さんや皆さんの子どもたちです。その子どもたちの学びが今のままでいいのか。みなさんはどう思いますか。今全国では様々な新しい学びの形、新しい学校の形が模索されています。そういった取り組みに関して最新の情報を持つ有識者の方々が昨年度から何回も青森県のために話し合ってくれています。その会議のメンバーが皆さん(青森県の子どもたち)の本音を知りたいとアンケート調査をしています。皆さんの意見は間違いなく会議のメンバーに全て届きます。青森県の未来のために10分間協力してください。

